

# 母性看護学実習

## 目的

妊娠期から子育て期にある対象および新生児の特徴と正常な経過を理解し、対象に応じた看護をするための基礎的な知識・技術・態度を修得する

## 目標

1. 妊娠期から子育て期にある対象および新生児の正常な経過が理解できる。
2. 母性各期と新生児期に必要な看護技術を安全に実施し、母子の経過に応じた適切な援助が理解できる
3. 産褥期にある母子が、健康に過ごすための援助ができる。
4. 母子と家族の役割変化や、母親役割の獲得に向けた援助について理解できる。
5. 地域における妊娠期から子育て期に対する切れ目のない母子の支援体制について理解できる。
6. 生命の尊さについての学びを深め、自己の母性観・親性観について考えることができる。

# 内 容

対象	看護のポイント
妊 婦	<p>妊婦の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子カルテ・母子健康手帳・対象とのコミュニケーションを通して妊娠経過を把握する               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊婦の健康診査と診察介助                   <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 一般状態</li> <li>(2) 血圧測定、体重測定、尿検査</li> <li>(3) レオポルド触診法、NST の介助、胎児心拍監視装置の装着方法と判定方法 超音波断層検査の見学</li> </ol> </li> <li>2) 妊娠各期の日常生活指導の理解                   <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 栄養と食事、排泄と清潔、乳房の手当て、着帯、運動と仕事・旅行・帰省の時期</li> <li>(2) マイナートラブル（不快症状）とその対応</li> <li>(3) 分娩に向けての物品・心の準備 パースプランについての把握</li> </ol> </li> <li>3) 保健指導の見学                   <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 母親教室</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>
産 婦	<p>産婦の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産婦の検査と診察介助               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一般状態</li> <li>2) レオポルド触診法、分娩監視装置装着の介助、児心音聴取見学</li> <li>3) 内診の介助</li> </ol> </li> <li>2. 分娩経過に応じた観察と援助               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 分娩第1期の観察と援助                   <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 一般状態</li> <li>(2) 分娩監視装置の装着と観察</li> <li>(3) 陣痛周期と子宮口開大の観察、破水・膣分泌物の観察</li> <li>(4) 児心音の観察</li> <li>(5) 産痛緩和への援助</li> <li>(6) 基本的ニードに関する援助</li> <li>(7) 心理的変化と精神的慰安</li> </ol> </li> <li>2) 分娩第2期の観察と援助                   <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子宮口全開大時刻の確認</li> <li>(2) 排臨・発露、児頭の回旋の観察</li> <li>(3) 産婦の体位、怒責、呼吸法の観察と援助</li> <li>(4) 産婦の安楽への援助</li> </ol> </li> <li>3) 出生直後の児の観察と援助                   <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 胎児娩出時刻、新生児蘇生アルゴリズム、全身観察、アプガースコアの判定</li> <li>(2) 母児標識、眼軟膏塗布、臍処置</li> <li>(3) 身体諸計測</li> <li>(4) 出生時の対応</li> <li>(5) 新生児室への申し送り</li> </ol> </li> <li>4) 分娩第3期の観察と援助                   <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 一般状態</li> <li>(2) 胎盤剥離徴候、胎盤娩出時刻の確認、胎盤の観察と計側</li> <li>(3) 子宮収縮状態の観察と促進</li> <li>(4) 出血の観察</li> </ol> </li> <li>5) 分娩第4期の観察と援助                   <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 一般状態と疲労度の観察と休息への援助</li> <li>(2) 1時間・2時間所見の観察</li> <li>(3) 全身清拭・更衣</li> <li>(4) 排尿の援助</li> <li>(5) 帰室時のオリエンテーション</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>3. 家族の心理についての理解と配慮</li> <li>4. 感染防止の援助</li> </ol>

<p>褥婦</p>	<p>褥婦の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠・分娩経過をもとに産褥経過の理解と観察       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一般状態、進行性変化、退行性変化、全身の変化、心理状態</li> </ol> </li> <li>2. 身体機能の回復および進行性変化・退行性変化への援助       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日常生活への援助とセルフケア</li> <li>2) 退行性変化を促す援助</li> <li>3) 泌乳機能促進への援助</li> <li>4) 感染予防の援助</li> </ol> </li> <li>3. 保健指導の見学および一部実施       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母児同室指導</li> <li>2) 沐浴指導</li> <li>3) 授乳指導</li> <li>4) 退院指導</li> <li>5) 2週間後健診</li> </ol> </li> <li>4. 母児関係成立に向けての援助       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母親役割行動の確認と実施への援助           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授乳、抱き方、衣服の着脱、おむつ交換、臍処置、清潔、危険からの保護など</li> </ol> </li> <li>2) 児に対する愛着行動の把握と支援           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 情緒的側面</li> <li>(2) 行動的側面</li> <li>(3) 母児同室などの場面での支援</li> <li>(4) 母親役割の高揚へ向けての支援</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>5. 家族の心理と発達危機への援助       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 父子関係、夫婦関係</li> <li>2) 家族関係</li> <li>3) 新しい家族形成のための援助</li> </ol> </li> <li>6. 母子の健康支援施策・法律       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 退院後の生活環境から、今後の生活を予測した援助</li> <li>2) 産後ケアシステムに関する内容の理解</li> </ol> </li> </ol>
<p>新生児</p>	<p>新生児の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常新生児の観察と援助       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一般状態、バイタルサイン測定、全身状態、</li> <li>2) 生後日数に応じた観察、生理的体重減少率の算出、成熟度の評価</li> <li>3) 安全の確保</li> <li>4) 授乳</li> <li>5) 清拭</li> </ol> </li> </ol>

# 方 法

1. 実習開始前に、学内にてオリエンテーションを受ける。
2. 学内実習  
ねらい：演習を通して、周産各期特有の看護技術を習得することで、臨地実習に備える。
  - 1) 妊婦・産婦・褥婦および新生児の特有の看護技術
  - 2) 沐浴指導（パンフレット作成とロールプレイ）
  - 3) 『妊娠期・分娩期・新生児期』のDVD学習
3. 病棟実習
  - 1) 実習開始前に、病院オリエンテーションを受ける。
  - 2) 病棟オリエンテーションを受ける。
  - 3) 実習期間中に産婦または一組の母子を受け持つ。産婦を受け持った場合、産後も受け持ちを継続する。
  - 4) 対象は、基本的には正常経過をたどると考えられる妊産褥婦および新生児とする。
  - 5) 産婦の看護は、行動計画に基づいて実施する。
  - 6) 褥婦の看護は、立案した看護計画に基づいて看護を実践する。
  - 7) 母性看護特有の看護技術を実施するときには、1回目は見学し、2回目以降は臨床指導者の指導・助言のもとに実施する。
  - 8) 実習2週目にテーマカンファレンスを開催する。
  - 9) 実習終了後は、「いのちの尊さ」について考察し、自己の考えを実習レポート用紙に記載する。
4. 妊婦健診
  - 1) 実習初日に外来オリエンテーションを受ける。
  - 2) 保健指導は助産師及び医師の指導を見学する。
  - 3) 臨床指導者の指示のもと、妊婦の計測、診察の介助を実践する。
  - 4) 母性看護特有の看護技術を実施するときには、1回目は見学し、2回目以降は臨床指導者の指導・助言のもとに実施する。

## 母性看護学実習評価表

市立鉏路総合病院 4 B 病棟 実習期間 月 日～ 月 日 番 学生氏名

項 目	評定尺度	評定
1. 妊娠期の対象の経過を理解できる。	診療録や対象とのコミュニケーションから把握した妊娠期の経過を述べられる。	A 5
	診療録や対象とのコミュニケーションから把握した妊娠期の経過をだいたい述べられる。	B 4
	診療録や対象とのコミュニケーションから把握した妊娠期の経過を少しでも述べられる。	C 3
	妊娠期の経過を述べられない。	D 0
2. 産婦と胎児の健康状態を捉えることができる。	分娩経過を理解し、産婦と胎児の状態を述べられる。	A 5
	分娩経過を理解し、産婦と胎児の状態をだいたい述べられる。	B 4
	分娩経過を理解し、産婦と胎児の状態を少しでも述べられる。	C 3
	産婦と胎児の状態を述べられない。	D 0
3. 産婦の心理状態を把握できる。	診療録や産婦の言葉・表情・態度から心理状態を述べられる。	A 4
	診療録や産婦の言葉・表情・態度から心理状態をだいたい述べられる。	B 3
	診療録や産婦の言葉・表情・態度から心理状態を少しでも述べられる。	C 2
	産婦の心理状態を述べられない。	D 0
4. 分娩経過に応じた援助がわかる。	分娩経過に応じた援助が述べられる。	A 5
	分娩経過に応じた援助がだいたい述べられる。	B 4
	分娩経過に応じた援助が少しでも述べられる。	C 3
	分娩経過に応じた援助が述べられない。	D 0
5. 褥婦の健康状態を捉えることができる。	褥婦の生理的経過を観察し、対象の状態を述べられる。	A 5
	褥婦の生理的経過を観察し、対象の状態をだいたい述べられる。	B 4
	褥婦の生理的経過を観察し、対象の状態を少しでも述べられる。	C 3
	褥婦の生理的経過を観察し、対象の状態を述べられない。	D 0
6. 退行性変化について理解できる。	子宮復古状態を観察し、その変化の過程についてアセスメントできる。	A 5
	子宮復古状態を観察し、その変化の過程についてだいたいアセスメントできる。	B 4
	子宮復古状態を観察し、その変化の過程について少しでもアセスメントできる。	C 3
	子宮復古状態を観察し、その変化の過程についてアセスメントできない。	D 0
7. 進行性変化を促進するためへの援助がわかる。	対象の状態に合わせた進行性変化を促すための援助が述べられる。	A 4
	対象の状態に合わせた進行性変化を促すための援助がだいたい述べられる。	B 3
	対象の状態に合わせた進行性変化を促すための援助が少しでも述べられる。	C 2
	進行性変化を促すための援助が述べられない。	D 0
8. 母子関係が成立していく経過を理解できる。	褥婦の言葉・表情・態度を観察し、児に対する思いや愛着行動を述べられる。	A 4
	褥婦の言葉・表情・態度を観察し、児に対する思いや愛着行動をだいたい述べられる。	B 3
	褥婦の言葉・表情・態度を観察し、児に対する思いや愛着行動を少しでも述べられる。	C 2
	褥婦の児に対する思いや愛着行動を述べられない。	D 0
9. 退院後の生活をふまえ、母児の状況に応じた援助がわかる。	母児の退院後の生活や家族・社会背景を考慮した援助の必要性が述べられる。	A 5
	母児の退院後の生活や家族・社会背景を考慮した援助の必要性がだいたい述べられる。	B 4
	母児の退院後の生活や家族・社会背景を考慮した援助の必要性が少しでも述べられる。	C 2
	母児の退院後の生活や家族・社会背景を考慮した援助の必要性が述べられない。	D 0
10. 新生児の健康状態を捉えることができる。	新生児の生理的变化を観察し、状態を述べられる。	A 4
	新生児の生理的变化を観察し、状態をだいたい述べられる。	B 3
	新生児の生理的变化を観察し、状態を少しでも述べられる。	C 2
	新生児の生理的变化を観察し、状態を述べられない。	D 0
11. 新生児の基本的な援助が、安全・安楽を考慮し実施できる。	新生児の経過や反応をとらえ安全・安楽に援助を実施できる。	A 5
	新生児の経過や反応をとらえ安全・安楽に援助をだいたい実施できる。	B 4
	新生児の経過や反応をとらえ安全・安楽に援助を少しでも実施できる。	C 2
	安全・安楽に援助を実施できない。	D 0
12. 母子の生活に即した看護計画が立案できる。	退院後の生活を踏まえ、母子の状況にあった計画を立案できる。	A 5
	退院後の生活を踏まえ、母子の状況にあった計画をだいたい立案できる。	B 4
	退院後の生活を踏まえ、母子の状況にあった計画を少しでも立案できる。	C 3
	母子の状況にあった計画を立案できない。	D 0

項目	評価尺度	評価	
13. 計画に基づいた援助が実施できる。	計画に基づいて実施できる。	A	5
	だいたい計画に基づいて実施できる。	B	4
	少しでも計画に基づいて実施できる。	C	3
	計画に基づいて実施できない。	D	0
14. 計画に基づいて援助した結果を評価・修正できる。	援助行為の結果と期待される結果を関連づけて評価し、解決策を修正できる。	A	5
	援助行為の結果と期待される結果を関連づけてほしい評価し、解決策をほしい修正できる。	B	4
	援助行為の結果と期待される結果を関連づけてほしい評価し、解決策を少しでも修正できる。	C	2
	援助行為の結果と期待される結果を関連づけて評価できない。	D	0
15. いのちの尊さについて考察し自己の考えを述べることができる。	体験を通しての学びを振り返り、生命や性、生に対する自己の考えを述べられる。	A	4
	体験を通しての学びを振り返り、生命や性、生に対する自己の考えをほしい述べられる。	B	3
	体験を通しての学びを振り返り、生命や性、生に対する自己の考えを少しでも述べられる。	C	2
	生命や性、生に対する自己の考えを述べられない。	D	0
		合計	70

《態度》

項目	評価のポイント	A	B	C	D		
1. 熟考性	・疑問、関心、興味あるものについて、文献を活用して学習できる。 ・日々学んだことや、問題点、疑問が放置されことなく学習され、実習に活かされている。	5	3	2	0		
2. 積極性	・課題達成、よりよい看護に向けて、積極的に学習し、主体的に行動できる。 ・カンファレンスのテーマに沿って、積極的な発言ができる。 ・自分の意見を述べるができる。 ・技術習得に向けて、評価を受けている。	5	3	2	0		
3. 責任性	・看護師、他の医療従事者、教員に正確に連絡・報告・相談できる。 ・時間や決まりごとを守ることができる。(記録物の形式、欠席・欠課の対応、提出物など) ・健康管理ができる。 ・援助や実技練習の際は、準備から後片付けまで責任もって行える。	5	3	2	0		
4. 協調性	・グループ内での協調的メンバーシップが取れる。 ・他者の意見を傾聴できる。	5	3	2	0		
5. 確実性	・行動計画の内容が適切であり、状況に応じて変更し、実習時間を意識しながら行動できる。 ・看護師、他の医療従事者、教員と調整、確認しながら実習できる。	5	3	2	0		
6. 誠実性	・誰に対しても言葉遣いは丁寧で、尊重した態度で接することができる。 ・看護を誠実に行える。 ・助言・指導を受け入れ、納得したうえで行動できる。	5	3	2	0	合計	30

<評価尺度> A:よくできた B:できた C:少しできた D:できなかった

総合点	
-----	--

実習指導責任者 \_\_\_\_\_

担当教員 \_\_\_\_\_